

R5 年度 校内研究計画（案）

令和5年4月13日

研究部

研究に対する基本の構え

- 研究の基盤は安定した学級経営
教材研究、児童の見取り、支援、家庭との連携、環境づくりを大切にする。
- 「研究」は日々の授業の見方や考え方を新たにしていく営み。
- 「研究」を通して学んだことがつながっていく
校内研究を通して得られた気づきが、日々の授業に還元されていくことを大切にする。
校内研究を通して得られた気づきが、広がっていくようにする。
⇒だれでもできるように、どこでもできるような実践を行う。

研究主題

情報活用能力を発揮して、**自信**をもって**表現**する子の育成

～GIGA 端末を活用した、主体的・対話的で深い学びをとおして～

これまでの研究で大切にされてきた「生徒指導三機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する）」は、学級経営、授業づくりの基本とし、日々の教育活動全体を通して児童の「自己指導力」を高めていくことは変わらない。その上で、GIGA 端末を活用して「個別最適な学び」と「協同的な学び」を一体として充実させていくことで主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを行う。このような学習活動を通して身につけた「情報活用能力」を発揮すれば、自らの考えや判断の根拠を持つことができ「やってみよう」とチャレンジする子を育てることができるのではないだろうか。

※今年度は、GIGA 端末活用3年目になる。1年目はGIGA 端末を「使ってみる」ことを重点とし、生徒指導三機能を意識した授業づくりをしつつ表現力の育成を目指して、様々な実践を重ねてきた。また、他校においてもGIGA 端末の活用をした多くの実践がなされていた。昨年には「情報活用能力が身についた児童の姿」を設定し、それまでの実践で得られた知見や情報を整理しながら6年間を見通して系統立てた情報活用能力育成を目指した実践を積み重ねた。3年目となる今年度は、情報活用能力育成の観点をより細かく設定し、資質能力の育成を目指していく。さらに、学習発表会や自由研究発表会といった発表の場では、児童自らが表現方法を選ぶなど、それまでに身につけた情報活用能力を発揮できるように研究を進めていきたい。それらの実践を行う中で、GIGA 端末を使って指導した方がよい場面、使わなくても指導できる場面、使わずに指導した方がよい場面を探り、従来の指導とICT活用とのベストミックスを図りたい。そのためには、学力分析の視点や教材準備のスリム化の視点、体育健康分野からの視点、生徒指導からの視点など様々な角度からの評価をお願いしたい。第四錦林小学校での研究が、他校でも実践できる、自分たちの財産となるように研究を進めてい

きたい。

研究テーマ 3つの視点からのアプローチ

I :GIGA スクール構想による教育の情報化の推進

- ① 情報活用能力育成表をもとに、子どもたちに身につけさせたい学習の基盤となる情報活用能力とそれを指導する単元を関連単元配列表に示す。
- ② 情報活用能力育成表をもとに、その評価指標を作成する。
→昨年度設定した「表現力」が身についた児童の姿は削除し、情報活用能力育成表をもとにさらに細かく単元を示し、育成する能力とその評価を明らかにする。また、評価の方法を検討する。
- ③ 体系表をもとに、問題解決や探究における情報活用を進める。
→①②の計画をもとに実践を進める。実践事例報告の作成【GIGA 推進チームが実践の取りまとめ】
- ④ 学校での学習と家庭学習のつながりを意識した GIGA 端末の持ち帰り活用の方法を探る。
→宿題の出し方や内容の提案。自主学習のやり方、夏休みの自由研究について児童に例示する
- ⑤ デジタル・シチズンシップ教育の事例をもとに、デジタル社会をよりよく生きる子どもたちに求められるスキルやモラルを育成するための情報モラル指導カリキュラムを整理する。
→情報モラル指導、デジタル・シチズンシップ教育の体系化【情報教育部からの提案】

II :地域と連携した持続可能な教育活動の実践 (SDGs)

- ⑥ これまでの地域と連携した学習を振り返り、地域教材を開発し、情報活用能力を発揮できる総合的な学習の単元構想を作成する。

III :「支える生徒指導」を生かした教育活動

- ⑦ 児童理解を深め、学習集団を育成する視点から、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」「安心安全な学習環境づくり」を指導・支援に活用す

令和5年度 研究のミッション

情報活用能力育成表と評価指標の作成、評価方法の提案(基礎学力・評価部会)

近畿放送教育研究大会(11月17日)-授業公開2クラス-

校内授業公開と研究協議会-5クラス(各学年1・3くみ)-

自由研究発表会(8月)

「総合的な学習」の単元構想の見直し

【成果物】

関連単元配列表の作成(4月・2月)

実践事例報告の作成と教材コンテンツ(7月・12月・2月)

る。

●校内研究授業について

- ・資質能力育成に重点を置くため、教科は定めない。
- ・各学年から1学級が授業を公開し、授業参観後に研究協議会を行う。

●校内研究授業までの流れ

- ①イメージ会議 → 指導案作成 ……授業日30日前 前後
(学年+研究主任+学校長)
- ②教科専門主事 事前指導助言または主事相談会への参加 ……授業日3週間前
(学年+研究主任)
- ③指導案完成・提出
- ④授業公開・事後研究会

●近畿放送教育研究大会について

- ・2学級が公開を行う。
- ・公開日時：11月17日（金）2校時
- ・参加者は授業参観後に別会場へ移動し、実践報告会に出席する。
- ・第四錦林小学校の教員は、午後から開催される全体会の講演に参加する。

※公開当日は第四錦林小学校教員の参観が難しいため、事前授業を参観して協議を行う。また、参加者からの意見をアンケートで集める。

●校内研究スケジュール

~~5月18日（木）~~ 研修①

6月7日（水） 研修①理論研 木村明憲先生「情報活用能力育成のための学習の進め方」

6月22日（木） 校内研究授業①（1年）生活 事後研究協議会

7月20日（木） 実践事例報告の作成①

夏季休業 研修②

9月7日（木） 3年研究授業 事前授業と指導助言

9月14日（木） 校内研究授業②（3年）社会

10月19日（木） 校内研究授業③（4年）社会

11月9日（木） 6年研究発表会 事前授業と指導助言（6年）

11月17日（金） 近畿放送教育研究大会（2年）生活（6年）総合

11月30日（木） 2年研究発表会 事後研究協議会と指導助言

12月21日（木） 実践事例報告の作成②

1月18日（木） 校内研究授業④（5年）

2月15日（木） 校内研究授業⑤（育成）

2月29日（木） 実践事例報告の作成③

4月13日（会議終了後）に時間を取って作成する。

—関連単元配列表・資質能力育成表・情報活用能力育成表の作成—

- ・ 情報活用能力が身についた児童の姿を中心に記載する。
- ・ 木村先生の図表を参考に、情報活用能力を育成する単元を設定し、育成する資質能力を記載する。
- ・ 情報機器操作能力（下段）を指導する単元や時期に合わせて移動する。
- ・ 情報モラル教育の内容を確認し、関連する学習や行事に合わせて指導時期を明確にする。

—他教科の計画との関連—

- ・ 体育学習の年間計画
- ・ 総合的な学習の単元構想 ~~—GIGA 端末等の操作スキルを指導する時間を5時間程度設定—~~
総合的な学習の中で”活用する”情報活用能力
- ・ ~~—「児童の姿」を育成するための単元に矢印を伸ばす。~~

—指導に関わる資料・教材の確認—

- ・ 既にアイコンがついているものは、昨年度GIGA 端末活用実践あり。引継をお願いします。
- ・ NHK for school 「しまつた」
- ・ 情報ハンドブック
- ・ ICT 活用実践事例ハンドブック
- ・ →指導の内容と時期を明確にして、公開授業の日程を決める。